

3月1日、第36回卒業式を挙  
 行し、晴れて278名が卒業しまし  
 た。名取市教育長様、市内中学  
 校校長先生を始め、多くの皆様にご臨席を賜り御礼を申し  
 上げます。また、これまで地域の方々を始め多くの皆様に  
 応援をいただきましたこと、心より御礼申し上げます。北  
 高卒業生は、これからの社会を支える優しく力強い成年に  
 さらに成長して参ります。今後ご支援を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。



校校長先生を始め、多くの皆様にご臨席を賜り御礼を申し  
 上げます。また、これまで地域の方々を始め多くの皆様に  
 応援をいただきましたこと、心より御礼申し上げます。北  
 高卒業生は、これからの社会を支える優しく力強い成年に  
 さらに成長して参ります。今後ご支援を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

— 卒業生代表答辞 — (抜粋)

松崎里歩 (3年・宮中出身)

私たちは3年前、平成26年の春に期待と不安に胸を膨らませながら名取北高校の門をくぐりました。入学当初は知らない顔ぶれに戸惑いつつも共に学ぶなかで少しずつ信頼関係を築き、一生の友人や思い出を作ってきました。個性豊かで普段はにぎやかなことが多いため、一見まとまりのないようにも見えるかもしれませんが、いざとなると団結し他者を思いやれる学年であったと思います。

2年生の終わりには有志で初めて「3・11なとり・閑上追悼イベント」のボランティアに参加しました。夕闇の中、被災した方々の想いを伺ったり、名取の小学校や各地から寄せられた絵灯籠のあたたかな光を目にしたり、一緒に活動することで改めて震災の重みや復興の力強さを肌で感じる事ができました。

私たち名取北高生は、前向きで人としての魅力にあふれる仲間だと思います。同学年の横の繋がりだけでなく縦の繋がりも強く、特に部活動内では節度ある態度が取れた上で親しくなることが出来ました。さらに学校生活の中で周囲の人からのアドバイスを真っ直ぐに受けとめ、成長してきました。こうして人との繋がりを大

事にしながら前向きに頑張れる生徒が多いことは、名取北高校の誇るべき点であると思います。それは決して当たり前なことではなく、この学校の先輩方が築き上げてきてくださったものだと思います。在校生の皆さんには、この良き伝統を受け継ぎ、さらに学校を盛り上げてほしいと思います。

また、入学してから三年間、厳しくも愛のある手厚いご指導をしてくださった先生方。先生方のお力があったからこそ、私たちは今この場に立つことができています。まだまだ未熟な私たちですので、今後も引き続きご指導よろしくお願ひいたします。そして、私たちをここまで育ててくださったお父さん、お母さん。普段は反抗してしまったり気恥ずかしかったりして面と向かって伝えることが出来ませんでした。この場をお借りして言わせてください。ここまで育ててくれて、常に温かく見守っていてくれて、一番の味方でいてくれて、ありがとうございます。これからも私たちの一番の理解者でいてください。よろしくお願ひいたします。

これから私たちはそれぞれの道を歩き始めます。時には悩み苦しみ、途方にくれることもあると思います。しかし、私たちはこの三年間全員で突き進んできました。この名取北高校で得たもの、友人や見守ってくれている人の存在を忘れず、日々精進して参ります。



「3・11なとり閑上追悼イベント」に生徒41名がボランティア参加

名取市役所市民広場で行われた「3・11なとり閑上追悼イベント」にボランティアとして生徒41名が参加し、絵灯籠の組立、設置、ろうそくの火の管理、片付等の作業を行いました。閑上地区の方々との交流と、多くの県民市民が哀悼を表すイベントの運営を通し、山田司郎市長様、佐々木悠輔実行委員長様(本校19回生)を始め多くの皆様にお声掛けをいただきながら、震災を忘れない取組の大切さや、若い世代へと繋げてゆく必要性を学びました。



(上)屋外で絵灯籠を組み立てる。(中)夕刻が近づき灯籠に点灯する。(下)ステージ前の北高制作の絵灯籠。

私は昨年に引き続きボランティアに参加し、大学生や多くの北高生と作業にあたりました。海外や日本全国から集まった四千基の絵灯籠を組み立てて設置し、作業を終えた頃には全員で成し遂げたという大きな達成感を感じました。震災からあつという間に6年が経ちましたが、被害の大きな場所以外では震災への意識が薄れつつあるように感じます。その中で、このような追悼イベントを通じ、決して押しつけではなく、友人との普段の会話の中で話題になり、震災を風化させないことが大切だと感じています。自分も何かしらの活動に継続して参加し、地域や仲間を思う大切さを確認したいと思ひます。



イベントに参加して  
 高沢一生 (2年・八軒中出身)

## 第2回学校評議員会を開催

2月21日、第2回学校評議員会を開催し、今年度の取組や学校評価アンケート等の結果を報告し、これからの学校運営へご意見をいただきました。「解決すべき問題を明確にすることで、校内のコミュニケーション力が高まり、社会全体の人材育成に繋がる」等の助言をいただきました。今年度の学校評価アンケート結果はホームページに掲載いたしましたのでご覧ください。



### 「感謝」と「助け合い」

学校評議員 多田伸彦

(セブンイレブン名取北高前店オーナー)

北高の皆様には、いつもお店をご利用いただきありがとうございます。当店はオープンして12年になります。オープン当初、「どんな生徒さん達なのか」と思った不安も、いざオープンしてみますとすぐ払拭されました。北高生は皆、挨拶してくれますし、買い物のマナーもとても良く、感心しています。北高の前で店を開店できて本当に良かったと思っています。



コンビニという仕事には、「感謝」する心と「助け合い」心が大切です。例えば商品を持ちきれないお客様には買い物カゴをお渡しする、お子様が商品が手に届かない時には取って差し上げるといったようなことを日頃から心掛けております。また、お客様に対しては常に心を込めて挨拶し、感謝の気持ちを伝えることを従業員全員で行っています。

生徒の皆様もいざ社会人になります。その時、困った人がいれば助ける気持ちや、周囲の人への感謝の気持ち忘れずに下さい。今の北高生であれば、将来社会に出ても大丈夫だと思っています。将来、つらい時や結果の出ない時は多々あるでしょうが、乗り越える力を高校時代に培って欲しいです。その時こそ、その人の真価が決まります。頑張ってください。

現在、北高の学校評議員を拝命させていただいており、北高生の校外での様子を興味を持って観ております。校長先生が毎朝の様に校門に立ち、生徒の皆様を迎えている姿を見ると、本当にすばらしい学校だなと思います。寒い日などホカロンを差し入れてあげて下さい(笑)。

当店は永遠に北高の「購買部」として皆様を応援して行きたいと思っております。名取北高に栄光あれ!

## 「大震災を語り継ぐ北高生の集い」開催

2月28日、今年で第3回となる「大震災を語り継ぐ北高生の集い」を開催しました。震災の犠牲者に黙祷を捧げた後、(公財)オイスカ



海岸林再生プロジェクト担当部長 吉田俊通さん(写真右)の講話を聞きました。震災直後のプロジェクトの立ち上げ、地元との連携づくり等、海岸林再生への夢と熱い想いを通し、復旧・復興に向けて自分たちに何が



育てた苗を持つ吉田さん

できるかを考えました。講話後、鹿野鈴賀さん(写真左・2年・槻木中出身)は「復興のための力を尽くしている方がたくさんいらっしゃることを知り感動しました。これまでもこれからも多くの苦労があるでしょうが、私たちは小さなことでも少しずつでも復興のための活動を続けて行く人でありたい」とお礼の言葉を述べました。

## 1年男子体育で剣道大会

3月2日、1年男子体育で行っている剣道の授業で、クラス対抗戦を行いました。女子が応援する中、熱戦が繰り広げられました。



### 剣道の授業を通して 及川拓真(1年・郡山中出身)



私は1年間の剣道の授業を通して、相手に対し敬意を払う「礼」について学ぶことができました。剣道は竹刀で打ち合う競技ですが、剣道は相手を対等に見て、感謝の気持ちを持っていなければならない競技であることが分かりました。今回のクラス対抗戦でも、敬意を持ち真剣に戦うことができました。今後の生活の中で人と

接していく中で、剣道で学んだ礼儀は大切な物だと思います。今後もこの精神を忘れず、自分を磨いていきます。



## 同窓会入会式

2月28日、同窓会入会式が行われ、郷内知明同窓会長(写真右・



本校2年生)より、北高OBの繋がりを生かし、それぞれの夢に近づけるよう激励をいただきました。代表の高橋直人さん(写真左・3年・槻木中出身)は、社会貢



献できる人物に成長したいと挨拶しました。

### 【宮城県名取北高等学校】

〒981-1224 宮城県名取市増田字柳田103

TEL 022-382-1261 FAX 022-384-8976

HP <http://natorikita.myswan.ne.jp>

mail [chief@natorikita.myswan.ne.jp](mailto:chief@natorikita.myswan.ne.jp)

(担当) 教頭・町田尚彦



(学校だよりのご感想をお寄せください)